第４回越生町立小中学校二学期制継続検証委員会議事録

令和５年２月１８日（土）　１４：００～

１　開会（副委員長）

２　あいさつ（教育長）
　　（委員長）

３　事務局より（事務局）

４　協議

（１）答申（案）について

○　「答申（案）」の構成、各項目の内容を事務局が説明。

○　主な発言内容

委員長

・　答申（案）について、これまでの３回の検証委員会において話し合われてきたが、ご意見等あればあげていただきたい。

委員２７

・　今日で答申を教育長に提出すると思うが、答申（案）の「（１）主に越生町立小中学校二学期制の成果と考えられるもの」の中の「子どもの学力・体力向上に関する視点」について、お話させていただきたい。二学期制について、授業時数が確保され、ゆとりが生まれることで、習熟の時間がとれること、また、子どもと向き合うことができることは理解している。

・　１５年続いた二学期制について、子どもたちの学力の状況はどうなのか、本検証委員会で質問させていただいてきた。その中で、他の委員より「学力の物差しが違うのではないか」「二学期制を実施している市町村、三学期制を実施している市町村と比較するのはどうか」という意見をいただいた。また、学力とは「知・徳・体」の総合力で論ずるべきであり、学力のとらえ方を議論しつくしたのだろうかと考えた時、私自身は十分に納得できていない。従って、本検証委員会で検証すべきと考える。

・　「子どもの学力・体力向上に関する視点」について、本検証委員会の第１回において「越生町の小中学校の学力はトップレベルである」と記述があった。また、県の学力調査において、学力の伸びがあるとも説明を受けた。それが当てはまる部分とそうでない部分があると考える。

・　教育の問題を論ずる場では、現在の越生町の子たちの現状を具体的な数値が必要ではないか。「教育環境が整っている」というだけではざっくりしていて物足りないと考える。

・　越生町の子どもたちの体力については問題ないと考えているが、学力については定義をしっかりと本委員会で捉えて、表記すべきと考えている。

・　二学期制について、保護者や地域に伝えていくにあたり、数値にこだわってはいないが、はっきりとした表記が必要ではないか。

委員長

・　学力については、第３回において、数値で測れないという意見がでていた。学力についての「物差し」を定義すべきとの意見だが、どうか。

事務局

・　前回の協議で学力については定義が難しいという意見である。従って、この「教育環境が整っている」という表記に留めた。

・　教育環境を論ずる材料として、教育員会の事務局点検を毎年行っている。「確かな学力と自立する力の育成」という項目では、その指標として町の学習支援員の配置数、英検受験者数、小小連携の実績、家庭学習・家庭生活アンケートの結果も参考に、総合評価でＡがつけられている。

・　学力の指標について本検証委員会で扱うべきかどうかという意見もいただいていたので、学力に関しての様々な取組を行うための「教育環境が整っている」という表記にした。

・　学力の「物差し」については非常に難しい問題である。案として現段階では以上のような表現になると考えている。

委員長

・　教育環境が整っているということは今後アピールしていくことが大切であると考える。

・　学力を物差しで表すことは非常に難しい。今ここで結論を出すことは難しいと考える。

委員２７

・　学力調査において、トップレベルなどという表記について、今後どうなっていくのか。越生町の子どもたちの学力を表す表現が変わる場合はあるか。

事務局

・　今回の答申ではそういった表記は削らせていただいた。しかし、その他の場面については、子どもたちの頑張りは評価していきたい。具体的な数値は明言しないが、上位レベル等の表現を使用する可能性もある。ただし、公式な場での学力についての表現については十分留意していく。

委員２４

・　学力については本検証委員会では議論することではないと考える。

・　越生町の場合は平成１９年に二学期制を導入し、今後どうするかは継続して議論していくべきと考える。答申の中に、学習指導要領の改訂等に合わせ、再度検討していくというような文言を入れてもいいのではないか。

事務局

・　答申（案）の中の「おわりに」で、年数は明言してはいないが、今後の社会情勢や教育改革を注視していく旨が記載されている。事務局としては設置要綱にある通り、答申を教育長へ提出すことで目的を達成したと考えている。

委員長

・　答申（案）は、本検証委員会で継続して議論してくことを約束していくものではないとの理解でよいか。

委員２７

・　「必要に応じて」「１０年毎」等の文言は入れたほうがよいのではないか。

委員５

・　学力の定義についてはこの場で議論することではないと考える。他の場所で越生町の目指す教育方針等を受けて、成果を検証すべきである。

・　答申（案）に関して二学期制の「成果」と表記することで苦しくなっていると感じている。「子どもの学力・体力向上に資する視点」としてはどうか。二学期制が学力・体力向上に役立ったと解釈できるようにしたらよいのではないか。現状の文言だと、二学期制を実施したことにより、学力・体力が向上したと捉えられる。

委員長

・　二学期制により、学校現場にゆとりと授業時数、体験活動が確保されたと考えて、学力が伸びたかどうかは教職員の取組により検証すべきものであると考えている。

・　他の意見はあるか。

委員２７

・　町の子供たちの教育を統括する教育委員会が学力、体力に関してトップクラスの表記について疑問があった。言葉を変えたことにより、地域に伝わるのであれば変えたほうがよいと考える。

委員長

・　今後、学力についての表現については気を付けていくということでよいか。

事務局

・　今後の表現等の仕方については検討してく。

委員長

・　他に意見はあるか。

委員２６

・　本委員会での議論の前段階として（学力の）ある程度の情報開示がなされていないことが問題となっていると考える。

・　本委員会は継続するための委員会であることは理解している。検証とは「実際に調べて証拠立てる」「仮説を実証する」という意味である。今回実際に何を調べたのか考えたときにゼロではないが、検証するためにアンケート調査の必要性を訴えてきた。今何が起きていているのか把握する必要がある。実際に不利益がある等の訴えも届いている。例えば、部活動の大会の日程と定期テストの日程が近い、また、定期テストの範囲が広く負担である等である。子どもや保護者が疑問や不安を本委員会とは違う角度で捉える必要がある。答申がで

ればもう調査を行うことができない。受験に失敗した事実もある。したがって、アンケート調査を行い、多方面から意見を聞き、改善すべき点があれば議論する必要があるのではないか。

委員１２

・　小さい意見でも大切にすべきである。しかし、本委員会を開催するにあたり、保護者等に参加を呼び掛けた。しかし、応募がなく、越生中学校ではＰＴＡから選出することにした。意見があるならば、本委員会に参加するべきである。それが難しいならば、そういった意見を、オフレコ等で構わないので詳しく本委員会で出すべきではないのか。本委員会は４回を数えている。これまでに拾える声もあったのではないか。その委員が我々なのではないか。私自身も委員会が始まるにあたり、家族や本部役員の皆さん等を含め意見を聞いた。その意見をこの委員会で出そうと思ってきている。疑問や不安の声は最初に出すべきである。小さい声は大切である。だからこそ意見は出し合うべきである。

委員長

・　答申についてはこれまでの委員会で話し合ってきた意見を踏まえ、まとめていくということでよいか。
・　本日付けで教育長に提出するという形とする。
・　それ以外ではあるか。

委員２６

・　この検証委員会は、今後どのような形で行っていくのか。例えば、梅園小学校の統合問題の検討委員会において議論した時には、議論を再開するにあたり、５０人を切った時に再度、会を立ち上げるみたいなことを当時の委員長が発言した。この会を残すのか、解散するのか、新たに何年間か後にもう一度検証していくのかＰＤＣＡがしっかりできていなければ、保護者も不安に思う。今回は特定の人たちばかり話しているが、話しやすい場であればみんな話せる。話しやすい場でないと言えない人もいるということを理解してもらいたい。

委員長

・　この会の今後についてはどうか。

事務局

・　この会は目的を達成したら終わりと設置要綱ではある。話し合う場は学校評価等、様々な場がある。事務局点検評価もある。教育委員会、学校は意見に耳を傾けていく。その中では、本委員会は答申にもあるとおり、一部の保護者からは二学期制との比較において課題があるのではないかという意見を受け止め、立ち上げた。
・　今後何年後に立ち上げるということは想定していない。社会情勢、教育改革を注視し、臨機応変に対応できるように備えることが大切であると考える。今後何年後にもう一度開催するということを明言したときに、先ほどの社会情勢や教育の在り方などが変わった時のことを考えるとこのような約束をするこ

とはこの場では難しいと考えている。例えば１０年後等の約束をこの場で行うことは無責任となってしまうと考える。従って、毎年の学校評価等振り返る機会は出来上がっているのでそちらを充実させていきたい。

委員長

・　教育委員会、学校等への意見を吸収する場はあると感じている。また、吸収する手立てを講じていただきたいと感じる。

委員３

・　参加させていただいて改めて二学期制に関して様々な意見を聞くことができた。継続すべきとの結論がでたので、二学期制の良さを最大限に生かしながら、学校経営を行っていきたい。先の事を予測することは難しい。課題についてはその都度対応できる体制をつくることが大切であると考える。今日のところは二学期制を継続していくことであるので学校を預かる校長としては、二学期制の良さを最大限に生かして行くということころで改めて決意を述べさせていただきたいと思う。

（２）その他

５　その他

・　本日付で答申を教育長に提出する流れとなる。

６　閉会（副委員長）